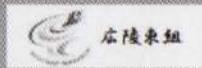


あつち
こっち

おみのり情報パック

おみじよ



親鸞聖人ご誕生850年・立教開宗800年慶讃法要
団体参拝のご案内



2022 夏の号
VOL.
I20

おみのり三昧

保育園からの帰り道、三歳になる長女が、車の窓から「ねえ見て。木にミカンがいっぱい干してある」とピックリしたように言ったのです。「ミカンが木になる」ということを、彼女はまだ理解できなかったのでしょう。母親が洗濯物を干すのは見慣れていたこともあって、山の斜面いっぱいに実るミカンも、誰かが「干した」と思ったようなのです。

その発想があまりにもかわいらしくて、夫婦ともに大笑いしました。でも、よくよく考えてみると、私たちも似たようなものの見方をしているかもしれません。物事の表面だけ見て根幹を見ず、自分の経験にあてはめて受け取るということが、案外多いように思えたのです。果実がなるには必ず、根や幹があり、光や水が注がれているように、すべてに因があり、縁がある、そのことをいただくのが、仏教の考え方なのです。

親鸞聖人は、「眞実」の「実」のおこころを「必ずもの実となる」とお示しくださっています。

「もの」とは、「一切のいのち」のこと。突き詰めていると「私のこと」でしょう。「実となる」とは、実ること。「結果を出すこと」「完成すること」でしょう。阿弥陀如来の周到な計画どおりの結果です。「一切のいのちを必ず救う」という阿弥陀如来の願いが、私のいのちの上に完成くだり、私のいのちの究極的な支えとなってくれます。そのことを聖人は「ものの実となる」と教えてくださるので。

そして、それが「必ず」といえるのは、ゆるぎのない根や幹に支えられているからです。私たちは、その根を、その幹を、「本願」と呼ぶのです。

私の姉は、広島市内にある寺院の坊守です。結婚後まもなく、そのお寺の本堂と庫裡の改修工事が始まりました。姉の夫、私にとっての義兄は、早くに父親を亡くしたため、若くして住職を継職しました。お父さまは五十九歳、義兄は二十六歳でした。

ものの実となる

改修にあたり、家の中を整理していると、亡くなったお父さまの残されたものもたくさん出てきたそうです。その中にカメラの保証書があったそうです。

とっくに期限が切れカメラもすでにありません。そんな保証書が、大切に保管されていたのです。

「こんなものまで父は取っていたのか…」と思いつながら、兄は保証書に刻まれた日付に目をやりました。そしてはっとしたのです。見覚えのある数字が並んでいたからです。有効期限が、兄の一歳の誕生日と同じだったのです。兄が生まれたその日に、お父さまが買ったカメラの保証書だったのです。

そのことに気づいた瞬間、涙がとめどなく流れました。そのカメラの保証書を通して、自分が生まれてくる前から、自分のことを大切に思ってくれていた父親のこころにであったのです。僧侶である兄は、そのことを阿弥陀如来のこころ、本願と重ねて話してくれました。

浄土真宗は、今、ここで、阿弥陀如来の救いをいただく教えです。「必ずもの実となる」との阿弥陀如来の願いが、私の人生の上に、眞実の花を咲かせ、まことの果実を実らせてください。それは、何か特別なことが私の上に起ころるのというのではなく、むしろ何気ない日常の中、その背景に、途方もなく大きな願いが、果てしない歴史とともにあるのだと知らされることだと思うのです。

そして、そのことが、そのまま私の「生死」の解決なのです。阿弥陀如来の眞実、その中に生きることこそ、阿弥陀如来の浄土に生まれ仏となさせていただく、疑いのない因なのです。

人生のさまざまなよろこび、悲しみを通して、ゆるぎのない大きな願いにいのちが包まれていることを、しっかりと聞かせていただきましょう。

(『大乗』2018年4月号抜粋・転載)

浅野
(愛媛・万福寺副住職)
執持

夏

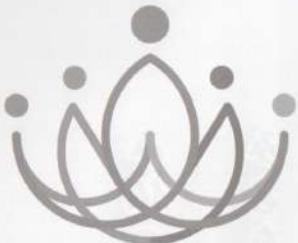
のことば

み仮の
み名を称ふるわが声は
わが声ながら
たふとかりけり

甲斐和里子

おみじょ探訪 安芸教区 広陵東組

親鸞聖人ご誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要と
京都国立博物館・特別展【親鸞 生涯と名宝】への旅



ご縁を慶び、お念佛とともに

親鸞聖人 御誕生

850
立教開宗
00

◆令和5年4月2日(日) 日帰り 定員130名

広島駅6:44発のぞみ 京都駅着

午前：法要 昼食：ハトヤ瑞鳳閣 午後：京都国立博物館
夕食弁当 広島駅18:52着 (京都市内は貸切バスで移動)

◆令和5年4月27日(木)・28日(金) 1泊2日 定員80名

27日 広島駅7:18発のぞみ 京都駅着

午前：京都国立博物館 昼食 午後：法要 大阪市内泊

28日 大阪観光（堺別院・さかい利晶の杜・空中庭園展望台）
新大阪駅発のぞみ 広島駅17:23着（夕食なし）
(のぞみ以外は貸切バスで移動)

◆京都国立博物館：法要期間中に特別展が開催されます。

親鸞聖人の求道と伝道の生涯を、自筆の名号・著作・手紙等の、淨土真宗各派の寺院が所蔵する法寶物を一堂に集めました、とのこと。

◆令和5年本山大法要の広陵東組団体参拝の出発帰着时刻・旅程・募集期間が決定しました。取り急ぎ、要点のみ今回ご紹介します。◆1次募集は各寺にて令和4年お盆頃～年内の予定です。◆参加費用は名鉄観光さまと只今検討中です。◆急な変更等もございますので、詳細は各寺院にてご確認ください。



『私の親鸞～孤独に寄りそう人』

(五木寛之著／新潮選書刊／1,350円税別)

著者は日本敗戦のとき中学1年生の12才。当時日本の植民地であった北朝鮮の平壤にいた。ソ連軍の戦闘部隊が進駐して収容所のようなところで暮らすことになったが、いつまでたっても日本への引き揚げは期待できない。脱北を試み、徒歩で38度線を越え米軍の難民キャンプに収容された。帰国するまでの2年間、幼い弟と二人で生きるためにといえ、人の道にはずれた行きをした自分は、「人間として許されざる者なのだ」という想いを抱きながら20代を過ごし、30才を過ぎたときに偶然に親鸞聖人の教えに触れた。—あらゆる人は全て悪人であり、人は誰もが悪を抱いて生きている。悪を抱き、深い罪を意識して悩んでいる人たちのためにこそ救いというものはあるのだ—。すぐそばにいて腕を取り、手を肩に置いて語りかけてくれるような親鸞聖人の存在。「ああ、この人は自分のことを分かってくれるんだ」という感覚。「とりあえず、自分も生きていくことを許される」という感動は非常に大きなものがあった。親鸞聖人の肖像画はどれも厳しい表情だが、温顔の聖人の姿を求めて龍谷大学に籍を置き、一步でも生きた親鸞聖人の姿に近づきたいという願いで小説『親鸞』を書いた。自分は歴史家でもなければ宗学者でもないから笑われたり、批判されたりもした。小説は必ずしも歴史ではない。小説から歴史を学ぼうとするのは間違っている。しかし、人間を描くということに関しては、小説は何が大きな力を持っている。少人数の聴衆を相手に語りあらした話を文章化した本なので読みやすい。話題も親鸞聖人・淨土真宗の枠を超えて多岐にわたっており、読後に視野の広がりと理解の深まりを感じる。

『聖書と歎異抄』

(五木寛之・本田哲郎著／東京書籍刊／1,300円税別)

映画化もされた『大河の一滴』、中国新聞に連載された『親鸞』などの著作で知られる作家・五木寛之氏と、カトリック司祭で、カトリック教会とプロテスタント諸派が共同して翻訳した『新共同訳聖書』の編集委員をつめた本田哲郎氏の対話。本田哲郎氏は、バチカンで聖書をオーソドックスに研究した日本では指折りの聖書学の権威だが、大きな教会には所属せず、大阪の峯ヶ崎地区で生きてきた。修士論文のテーマは「フランシスコと親鸞」で、仏教への造詣も深い。誰かにしゃべったこと、面と向かって話したこと、あるいは対話、そういうものが本になつたとき、むしろ自分で筆をとって書いたものより、その人の思想をずっと深く正しく伝えることがある、と五木寛之氏は言う。机に向かって文字を書くとき、人は必ず修飾をする。自分の考えを矯正したり、こう読まれたいという欲が出たりして、色々な操作をする。しかし、人に語ってしまったことは事実として、動かすことができない記録として後に残る。だから本人が書いたものより本人が語ったこと、あるいは本人はこう振る舞っていた。という第三者の記録のほうが、その人の精神や眞実をより深く伝えているのではないか。『歎異抄』は親鸞聖人の自著ではなく、弟子の唯円が書き書きしてまとめたもの。『聖書』はイエスの弟子が書いた言行録でイエスは一行も書いていない。この2冊を通じた対談で、イエスの言行と親鸞聖人のものの考え方や行動に、不思議なほど重なる部分が多いことが明らかになる。



おみのりカレンダー

7月

次市大和町・教導寺〔時間〕
14:00〔会場〕光道会館

8月

1日(金)真宗学寮広済会法座(7/1~7/3)「正信偈に聞く～淨土真宗の教い～」東元晃慈師(西区・真宗学寮)〔時間〕9:00; 13:30(1日のみ朝席なし)〔会場〕真宗学寮講堂

2日(土)關教部光道会真宗講座「名前の宗教」大田利生師(龍谷大学名誉教授)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

10日(日)日曜真宗講座
細馬洋記師(呉市・誓光寺)〔時間〕9:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

15日(金)親鸞聖人御命日法要(7/15~7/16)原田有淨師(佐伯区・正乗寺)〔時間〕15日:13:30/16日:6:30;10:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

20日(水)關教部慈光会月例法座「暮らしの中の仏教語に聞く」桑原淨昭師(呉市・淨円寺)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

24日(日)日曜真宗講座
今津隆文師(安佐南区・明福寺)〔時間〕9:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

27日(水)關教部慈光会月例法座「難行を棄てて本願に帰す」福間義朝師(三

(佐伯区・正覺寺)〔時間〕15日:13:30/16日:6:30;10:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

17日(水)關教部慈光会月例法座「不安からの学び」加藤一英師(農田郡・淨泉寺)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

28日(日)日曜真宗講座
三ヶ本義唯師(安佐北区・徳行寺)〔時間〕9:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

9月

3日(水)關教部慈光会月例法座「今ここでの救い」伊藤唯見師(筒賀村・順正寺)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

5日(金)原爆忌法要(8/5~8/6)武田一真師(安芸郡・龍仙寺)〔時間〕5日:13:30/6日:6:30;10:00〔会場〕真宗学寮講堂

6日(土)關教部光道会真宗講座「名前の宗教」大田利生師(龍谷大学名誉教授)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

7日(水)關教部慈光会月例法座「菩薩あればこそ」築田哲雄師(南区・法光寺)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

14日(日)日曜真宗講座
河野法賢師(安芸郡・西昭寺)〔時間〕9:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

11日(日)日曜真宗講座
高都持大道師(廿日市市・法性寺)〔時間〕9:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

15日(月)孟蘭盆会
(8/15~8/16)瀧潤良孝師

2022 7~9月

スケジュールの内容が、一部変更になる場合があります。電話で確認の上、お出かけください。

15日(木)親鸞聖人御命
日法要(9/15~9/16)河野行昭師(安芸郡・西林寺)〔時間〕15日:13:30/16日:6:30;10:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

21日(水)關教部慈光会月例法座「雲霧の下あきらかにして」武山晃隆師(山県郡・専正寺)〔時間〕14:00〔会場〕光道会館

23日(金)秋季彼岸会
朝枝曉範師(山県郡・立本寺)〔時間〕10:00;13:30〔会場〕本願寺広島別院本堂

25日(日)日曜真宗講座
前寺信徳師(安佐北区・万福寺)〔時間〕9:00〔会場〕本願寺広島別院本堂

※新型コロナウイルスによる感染症の影響により、各行事が中止、または延期になる可能性がありますので各所にお問い合わせください。

本願寺広島別院 082-231-0302
真宗学寮 082-231-2900
關教部 082-233-4640



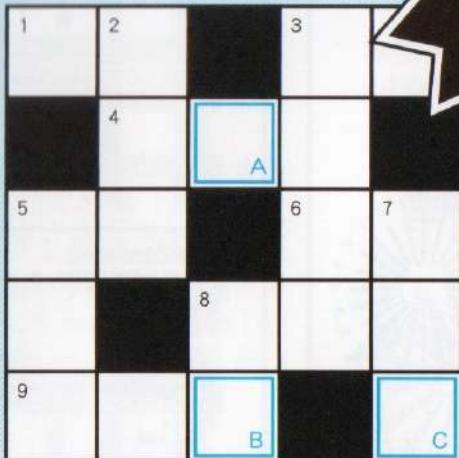
おみじょクイズ



記念品
進呈!!!

クイズの応募はコチラまで

右のクロスワードパズルを完成させて下さい。A～Cの一重枠に入った文字を並べかえてできる言葉はなに？



● ヨコのカギ ●

1. 布や紙で作り、国の印やかざり、信号などを表すのに使うもの
3. 鳥やけものなどを野山へとりに行くこと。動植物をながめて鑑賞したりとったりすること。
4. 古代から伝承されてきた、神聖さを帯びた物語。「ギリシア〇〇〇」
5. 少しの範囲が燃えただけの小さな火事。「〇〇騒ぎ」
6. 人口が非常に少ないこと。
8. 墨の濃淡だけで描いた絵。水墨画。
9. とりたててくれたところ。長所。

● タテのカギ ●

2. 自分以外の人。ほかの人。
3. 川の上流
5. 小さな舟。人がオールでこぐ舟。
7. 草木などがたおれないように支えの木を添えること。
8. これから先。将来。一番年下の子。世も〇〇。



…因縁生起の略。仏教がもつ根本的な世界観。「〇〇が悪い」などの間違った使い方も。

答え… □ □ □

ハガキに答と、あなたの郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号および本誌の感想、おたよりなどを必ず書き添えてお送り下さい。

宛先：〒730-0811広島市中区中島町7-2

淨圓寺内『おみじょ』読者係

正解者の中から5名の方に記念品を進呈致します。〆切は9月10日（必着）、当選者の発表は次号です。おたよりやQ&Aも、どしどしお寄せ下さい。

なお、お送り頂いたおたよりは、断りなく本誌に掲載することがありますので、ご了承下さい。

前号のクイズの正解

ほんがん

当選者（敬称略）2名

西区 矢野リサコ 南区 榎泰

他にも正解者はあったのですが、お名前の記入がなく、残念ながら、今回の当選は2名のみです。

編集後記

◆ 先日ソニー一グループのCEO（井出伸之さん）が亡くなつた。ソニーと言えば小さい頃から日本を代表するブランドで、親世代は高価なソニー製品を買って自慢していたものだ！ラジオ、ウォークマン、コンポ、カメラ、ビデオ、テレビ、パソコン等 時代の最先端の商品が多く魅力的な会社だった。しかし、いつの間にか、アップルやマイクロソフトなどの欧米の会社が次々に最先端の商品を生み出し、日本の企業はそれに乗り遅れた感じだった。◆ 私もソニーの商品を愛用していたが、いつの間にか魅力が半減していた。井出さんがソニーに入社されたのが1960年というからそれから60年余りで、身の回りにある家電製品も劇的に変わつてしまつた。一丁の時代になつたのだ。ネットを介してコンテンツを販売しがれ、音楽、映画エンターテインメントを届けるパソコン関連の物はもちろんネット銀行、保険はたまた大型ロボットまで、未来的で、魅力的なものが再び揃いはじめている。ソニーの魅力が再び戻りつつある。◆ 未来を見据えて物を作り出す「先見の眼」を持つというのは、過去の良い物を取り入れつつそれを今にどうアレンジして世の中に出していくのか！若者の言葉に「エモい」というのがある。昭和の時代が「エモい」というのだ。昭和の時代が感動的という事なのか？ボタン一つで「飯が炊ける時代に釜戸でご飯を炊く、そこに作る過程が加わるところがエモい！」のだろう。◆ お寺も最先端と昔の良い所のハイブリッドな場所であつて欲しい。（武）